

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	4/4(月)	4/5(火)	4/6(水)	4/7(木)	4/8(金)
無担保O/N	△0.080% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,000	+ 1,000	トシ	トシ	△ 1,000
財政他	△ 6,000	+ 3,000	+ 1,000	△ 21,000	△ 2,000
資金需給	不 5,000	余 4,000	余 1,000	不 21,000	不 3,000
主な要因	普通交付税 法人税・保険揚げ		国庫短期証券発行・償還 (3M) 国債発行(10年)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,100 CP買入 △ 200 国債補充供給 + 1,900				
オペスタート	国債買入 + 13,100 国債補充供給 △ 2,100	国債買入 + 5,200			
(日本)	日銀短観(3月調査全容、 「企業物価見通し」概要) マネターベース(3月) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	日銀当座預金増減要因(4月) 毎月勤労統計(2月) 需給ギャップと潜在成長率	景気動向指数(2月)	日銀全国支店長会議 黒田総裁あいさつ 地域経済報告(4月) 対外対内証券売買(前週分) 日銀の対政府取引(3月) マネターベースと日銀の取引 (3月) 営業毎旬報告(3月31日現在) コール市場残高(3月)	国際収支(2月) 企業倒産(3月) 消費動向調査(3月) 景気ウォッチャー調査(3月)
(海外)	米 労働市場情勢指数(3月) 米 製造業受注(2月) 米 ホストン連銀総裁講演	米 貿易収支(2月) 米 ISM非製造業景況指数 (3月) 米 求人件数(2月) 欧 ユーロ圏総合PMI(3月)	米 FOMC議事録 (3月15-16日会合分) 米 クーブランド連銀総裁講演	米 新規失業保険申請件数 (2日終了週) 米 消費者信用残高(2月) 米 イェレンFRB議長、バーナンキ 前議長、グリーンズパン 元議長、ホルカー元議長の 討論会 米 カンザスティー連銀 総裁講演 米 IMF世界経済見通し公表 欧 ECB議事要旨	米 卸売在庫・売上高(2月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.08 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.08 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.08 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.08 ~ 0.001

<インターバンク>

当座預金残高は週初、国債買入等を主因に先週末比2兆1,700億円増加の272兆円台から始まった。その後月末にかけて年度末諸払い等財政要因や国債買入等を受けて、週末となる4月1日は276兆800億円まで増加した。無担保コールON物は概ね△0.01%~0%のレンジで取引され、同加重平均金利は31日除き△0.007%~△0.006%で推移した。期末越えとなる31日については取引水準に大きな変化はなかったものの、マイナス金利でのオファーが減少し、加重平均金利は△0.002%となった。ターム物では期末越えとなるウィーク物を中心に△0.01%~0%のレンジで取引された1日に発表された日銀短観では、業況判断DIは大企業・製造業でプラス6、同非製造業でプラス22となり、それぞれ前回12月発表のものから6ポイント、3ポイント悪化し、非製造業については2014年9月以来6四半期ぶりの悪化となった。

また日経平均株価は、短観が予想を下回った結果などを受け、終値は16,164.16円となり、3月1日以来1ヶ月ぶりの安値となった。

来週の予定では、国内では日銀短観3月調査全容(4日)、地域経済報告やコール市場残高(7日)などが、海外ではFOMC議事録(6日)やイェレンFRB議長・バーナンキ元議長・グリーンズパン元議長・ホルカー元議長の討論会(7日)が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.150 ~ △0.050
現先(on/1w)	0.0001 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行額は約11,800億円で、期落ち額約28,700億円(金融機関・ABC除外)を大きく下回った。期末に有利子負債を圧縮する動きにより、3月末の残高は大幅に減少。過去最低の2014年3月末以来の12兆円台となった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、0.0001%~0.0050%程度で推移した。来週の期落ち額は約2,500億円程度となっている。

<TDB>

今週は国庫短期証券の入札はなかった。セカンダリーは3Mで△0.105%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合は見られなかった。来週は5日、7日に3M、6日に6Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週を通して△0.09~△0.10%の狭いレンジで推移。週初△0.09%近辺の出合いから始まり、3月末初物でもレートは横ばいで△0.09%近辺の波乱のない取引となった。その後も発行がなく同水準での出合いとなったが、週末には短国オベが見送られたこともあり△0.08%台の出合いも見られ越週した。SCは5年123・124・125・126回債、10年債331・336・337・338・339・340・341・342回債、20年155回債、30年48・49・50回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。